20世紀の英訳聖書に対する欽定訳の影響（2）

半　田　一　吉

社会学部紀要第58号において、20世紀に出版された新しい英訳聖書のうち、James Moffat訳（1913－24）、*The New English Bible*（新英語聖書 1961－70）、*The Jerusalem Bible*（エルサレム聖書　1966）、*The Revised Standard Version*（改訂標準訳　1946－71）、*The New International Version*（新国際訳　1978）の5種が、どの程度1611年の *The Authorized Version* の影響下にあるかを考察してみたのであるが、それに引き続き今回は20世紀に新しく英訳された別の4訳をとりあげてみることとしたい。前回の5種の versions は、いずれも礼拝で使用されるか、信者が自分で研究的に読むのに用いられることを目的としていて、意味だけでなく、できるだけ原文の形を忠実に伝えようとする意図が見られる正統派的なものであるが、今回は傾向の変わったものも含めて、次の4訳をとりあげることとする。

（1）*Good News Bible*, 1976（GNBと略す）

（2）*The Way*（*The Living Bible*), 1972（WAY）

（3）*The Bible in Basic English*, 1949（BBE）

（4）*The New Testment, an American Translation*
　　(translated by Edgar J. Goodspeed)，1923（GNT）

各節の単語数は *The Authorized Version*（以下AV）との違いを反映していることが前回の結論ではっきり見られるので、今回もまず各節の単語の数を調べ、各節ごとに同じ単語が幾つで異なる単語が幾つあるかを教える。一貫性をもたせるために前回と同じ方法で数えるが、念のため数え方の原則をここで改めて述べると、旧約聖書から創世記第1章を、新約聖書からヨハネによる福音書第1章をとりあげ、1節ずつ新訳とAVとを比較して、新訳の語数で幾つの語がAVと同じで幾つが違う語になっているかを数える。その際冠詞はその後

の名詞と合わせて一つとし、完了形や進行形も一つと数え、to 付き不定詞も to を含めて一つと数える。ただし冠詞が AV と新訳とで異なる場合は、冠詞も別に数える。付表の語数は冠詞なども一つずつ別に数えた文字通りの語数である。従って同じ語と異なる語の合計が、多くの節において表の語数よりも幾らか少なくなっている。

構文の比較では、単語数のようには客観的な数をあげることは困難で、およそ同じ文構成になっているか別の idea による別構造の文であるかの判断は、かなり主観的になるので、何回か行ってその平均をとったものである。長い文は幾つかの部分に分けて比較している。

Ⅰ．グッドニューズ聖書
(*Good News Bible*)

新しい訳がどのような経緯でできたかということは、その内容と文体にも大いに関わりがあるので、前回同様それぞれ簡単に述べておきたい。

1966 年 9 月にアメリカ聖書協会は *The New Testament in Today's English Version*（現代英語版新約聖書）を出版した。同協会は元来非常に保守的で、はじめは注解なしの AV 版しか出そうとしなかったが、時代は変わって AV の英語は多くの人にとって理解困難となり、その改訂版も学問的に多くの問題が修正されておらず、注解付きの新しい訳を求める声は高まる一方で、このような中で売り出されたカトリック系のエルサレム聖書や英国における新訳の新英語聖書が、アメリカでも非常な売れ行きを見た。さらに改訂標準訳や諸種の個人訳も相前後して現われ競合する形になった。このような形勢の中でアメリカ聖書協会が小手調べに出したのが、上記の現代英語版新約聖書である。これは大変好評であったので改訂して版を重ね、旧約の新しい訳も出すこととなり、7 人の翻訳者が任命され、1971 年には英国からも顧問の形で参加をみている。このようにして 10 年かかって 1976 年に完成し、新約第 4 版とともに *The Good News Bible* として出版された。

翻訳者は、新約が Robert G. Bratcher 1 人で、旧約は Bratcher を委員長と

して、Roger A. Bullard、Keith Crim、Herbert Gretcher、Barclay M. Newman、Heber F. Peacock、John A. Thompson の7人である。外典は Peacock、Bullard、Newman の3人が当たっている。題名の Good News は福音のことであるが、Gospel という語を用いないで、Good News という大変分かりやすい語を用いているところに訳文の性格が象徴されているので、『福音聖書』というような訳語を用いるよりも、『グッドニューズ』のままにしておきたいと思う。

この訳は英語を母国語とする人達も外国語として習得した人達も含めて、世界中で読まれるように作られたものである。従ってできるだけ分かりやすい口語に訳されている。旧約の基礎となった原典は Rudolf Kittel：*Biblia Hebraica*（第3版　1937）のマソラ本文である。ヘブル語本文から満足な解釈が得られないときには、ギリシア語、ラテン語、シリア語訳も参照されている。新約は最終的には United Bible Societies の *The Greek New Testaments*（第3版　1975）によっているが、幾つかの他のギリシア語写本の助けも借りている。翻訳の草案は著名な神学者や聖書学者からなる検討委員会に送られて意見を求められ、アメリカ聖書協会の理事会が最終決定をした。協会の意向であまりに自由すぎる訳は押えられたようである。翻訳者の最大の関心は原典の意味を忠実に訳すことで、原文の意味を正しく理解することが第1の仕事であった。時には語句の意味が確定し難かったり、文化的、歴史的な背景が今となっては知り得ないこともあり、そのような場合は古代訳や各国語訳を助けとして原典の意味をできるだけ正確につきとめる努力がなされた。次の仕事はその意味を英語をコミュニケイションの手段とするあらゆる人に容易に理解させる形と様式で表現することである。語彙については特に制限は加えられてはいないが、自然で明瞭、簡明で、曖昧さのない言葉を用いるために最大限の努力が払われた。従って原語の品詞、構文、語順などにこだわって、これを英語で表現しようなどとは考えていない。原文のもつ文化的、歴史的特徴は忠実に表現し、これを近代化したりはしないが、1日の時刻の数え方や度量衡の単位などは現在のものに換算されている。人名や地名などで二つ以上の呼び方があるも

のは、もっとも親しまれている名に統一され、「ヤハウェ」や「エホバ」は Lord で統一されている。

以上は序文[1)]の中に述べられている方針の要約であるが、旧新約ともに各巻ごとに最初に Introduction があり、各章ごとに見出しがついていて、章とは別に話の句切りで段落に分けて、段落ごとの見出しもついている。各ページには脚注があり、ところどころに線画の挿し絵があって目を楽しませる。最後に数葉の地図とその索引、および単語索引がついている。この聖書はアメリカ人向きに作られたが、英国式に綴り字などを改めた英国版もある。

創世記では第1章の初めに *The Story of Creation* という題がついていて、これが第2章4節まで続いている。この第1章では、AV と同じ語214語に対して別の語に変わっているのが323語であって、同じ語の比率は39.9%であり、MOF の66.4%、NEB の65.7%、JER の68.6%、RSV の75.9%、NIV の60.1%と比較して著しく低い率になっている。これは WAY よりも低い数字で、前回と今回調査した8訳中最も低く、この点に関する限り GNB は AV から一番遠い所にある。構文の比率においては、AV と共通している率が47.1%で、この点では WAY よりやや高い数字になっているが、その他のどの訳よりも低い率で、やはり同じ傾向を示しており、それだけ GNB は革新的ということになる。第11節と第12節とを AV と比較してみると、AV が英語からの発想よりも原文の単語や構文の影響が強い翻訳調であるのに対して、GNB は意味の分かりやすい英語になっているということができる。（前回同様 AV は1611年版の綴りによる）

(AV)

[11]And God said, Let the Earth bring foorth grasse, the herbe yeelding seed, and the fruit tree, yeelding fruit after his kinde, whose seed is in it selfe, vpon the earth : and it was so.

[12]And the earth brought foorth grasse, and herbe yeelding seed after his kinde, and the tree yeelding fruit, whose seed was in it selfe, after his

1) *Good News Bible*（*The Bible in Today's English Version*）—Preface

kinde : and God saw that it was good.

(GNB)

[11]Then he commanded, "Let the earth produce all kinds of plants, those that bear grain and those that bear fruit"—and it was done. [12]So the earth produced all kinds of plants, and God was pleased with what he saw.

上記の例を見れば、GNB は AV に見られる英語では無駄と思われる繰り返しを省いてすっきりした英語になっているのが分かる。前回の結論で、保守的傾向の強い RSV と NIV をのぞいた MOF、NEB、JER の 3 訳は、いずれも創世記において語数が AV よりも著しく少なくなっており、これは古文の冗語の多い表現を意味の通りやすい近代的な文に改めたためとしたが、このことは上記の比較でも明らかであり、GNB では 625 語で、このあとに述べる WAY の 586 語を除けば他のどの訳よりも少なく、創世記は新しい訳ほど短くなってゆくという一般的傾向がここでも実証されている。このような傾向が一層明白に示される例として、第 20 節の比較を次に掲げる。

(AV)

[20]And God said, Let the waters bring foorth abundantly the mouing creature that hath life, and foule that may flie aboue the earth in the open firmament of heauen.

(GNB)

[20]Then God commanded, "Let the water be filled with many kinds of living beings, and let the air be filled with birds.

語句においても bring forth を produce に、foule（=fowl）を bird に変えるなどの近代化のほかに、God said を God commanded にするなど、意味内容から考えての変更も加えられていることが分かる。

ヨハネによる福音書では、前回取り上げた 5 訳は、創世記の場合と比べて AV よりもそれほど語数が減っておらず、かえって AV の一番忠実な改訂版であるはずの RSV が最も語数が少ないのは、他の訳が神学的に説明を加えようとしているのに対して、RSV はただ表現を近代化するにとどめているためと

結論ずけたのであるが、今回の4訳ではこの傾向はさらにに強まり、いずれもAVよりも語数が増えている。最初の節を比較してみると、AVの方が神秘的表現であるのに対して、GNBの方が意味のよく分かる説明的な表現になっているのが分かる。さらに第12節と第13節を比較してみる。

(AV)

[1]In the beginning was the Word, & the Word was with God, and the Word was God.

[12]But as many as receiued him, to them gaue hee power to become the sonnes of God, euen to them that beleeue on his Name:

[13]Which were borne, not of blood, nor of the will of the flesh, nor of the will of man, but of God.

(GNB)

[1]Before the world was created, the Word already existed ; he was with God and he was the same as God.

[12]Some, however, did receive him and believed in him ; so he gave them the right to become God's children. [13]They did not become God's children by natural means, that is, by being born as the children of a human father ; God himself was their Father.

第13節のGNBの表現はきわめて具体的である。次の第15節と第16節は、GNBがWAYとともに、AVに比べて著しく長くなっている箇所で、それだけ説明を必要とする内容をもつ箇所ということである。比較のためWAYの訳も並べてみる。

(AV)

[15]Iohn bare witnesse of him, and cried, saying, This was he of whom I spake, He that commeth after me, is preferred before me, for he was before me.

[16]And of his fulnesse haue all wee receiued, and grace for grace.

(GNB)

[15]John spoke about him. He cried out, "This is the one I was talking about when I said, 'He comes after me, but he is greater than I am, because he existed before I was born.'"
[16]Out of the fullness of his grace he has blessed us all, giving us one blessing after another.
(WAY)
[15]John pointed him out to the people, telling the crowds, "This is the one I was talking about when I said, 'Someone is coming who is greater by far than I am—for he existed long before I did!'" [16]We have all benefited from the rich blessings he brought to us—blessing upon blessing heaped upon us!

特に第16節はAVでは意味が分かりにくいが、GNBもWAYもよく分かるように説明しようとしており、また両者がよく似た訳になっているのが興味深い。なおGNBでは第15節と第16節の間でパラグラフが変わっているが、WAYでは第15節の前で切れている。

ここで第20節について、特に他の全部の訳と比較してみることにしたい。
(AV) And he confessed, and denied not: but confessed, I am not the Christ.
(GNB) John did not refuse to answer, but spoke out openly and clearly, saying: I am not the Messiah."

AVの表現は曖昧であるが、and denied notはconfessすることを拒否しなかったという意味であって、原語の *καὶ οὐκ ἠρνήσατο* (kai ouk ērnēsato) の最後の語は *ἀρνέομαι* (arneomai=to deny) のaorist middle indicativeで、and he did not contradict or refuse to say who he wasということである[2)]。従ってGNBの表現はその意味をはっきり伝えている。日本語聖書の口語訳の「彼は告白して否まず『わたしはキリストではない』と告白した」はAVの線に沿った表現で、もう一つはっきりしないが、共同訳の「彼は公言して隠さず『わ

2) A. T. Robertson: *Word Pictures in the New Testament,* volume V, p. 19

たしはメシアではない』と言い表した」の方が明瞭で、NEB などに似ている。ここで他の英訳のこの箇所を比較してみると：

(MOF) he frankly confessed—he did not deny it, he frankly confessed, "I am not the Christ."

(NEB) He confessed without reserve and avowed, 'I am not the Messiah.'

(JER) he not only declared, but he declared quite openly, 'I am not the Christ.'

(RSV) He confessed, he did not deny, but confessed, "I am not the Christ."

(NIV) He did not fail to confess, but confessed freely, "I am not the Christ."

(WAY) He denied it flatly. "I am not the Christ," he said.

(BBE) He said quite openly and straightforwardly, I am not the Christ.

(GNT) He admitted—he made no attempt to deny it—he admitted that he was not the Christ.

なお本小論では取り上げていない三つの最新訳もここで特に比較してみたい。それは NEB の改訂版である *The Revised English Bible*（REB）と、RSV の改訂版である *The New Revised Standard Version*（NRSV）と、JER の改訂版である *The New Jerusalem Bible*（NJER）の 3 訳である。

(REB) He readily acknowleged, 'I am not the Messiah.'

(NRSV) He confessed and did not deny it, but confessd, "I am not the Messiah."

(NJER) He declared, he did not deny but declared, 'I am not the Christ.'

以上のうち、RSV と NRSV は AV とほとんど同じであり、MOF と GNT も AV 寄りの訳である。NEB、JER、NIV、BBE はそれぞれ独特の訳し方であるが、いずれも「自分が誰であるかを述べることを拒まず、むしろ率直にはっきりと述べた」という趣旨の訳で、REB では一番簡略にすっきりと整理されている。WAY だけは独特で、他と異なる使い方で deny が用いられて、「自分がキリストであることを否定した」という意味になっている。NJER では古い方の JER よりも AV 寄りになって、かえって曖昧になったような印象を受ける。

ヨハネ第1章全体でのAVとの語の共通率49.0%は、やはり前回のどの訳よりも低いが、WAYよりはかなり高くなっている。創世記の場合ほどには、MOF、NEB、JER、RSV、NIVの5訳と比べて数字が大きく違わない。これは難解な箇所を分かりやすい文にしようとする努力において共通点があるからと思われる。構文の共通率40.9%についても同様のことが言える。

GNBのヨハネ第1章はパラグラフのほかに5部分に分けて、それぞれ標題をつけている。

II. 現代聖書『道』
(*The Living Bible : The Way*)

アメリカのTindale House Publishersが出している*The Living Bible*は*The Way*とも呼ばれるが、これは「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネによる福音書14章6節）という聖書の言葉から出ている。計画したのはCampus Life Magazineの編集局で、訳者はKennith Taylorである。訳者はこれを翻訳と呼ばずにparaphraseと呼んでおり、表紙には大きくTHE WAYと書かれていて、THE LIVING BIBLEという文字はその下に小さく見えるだけなのにもその姿勢がうかがわれるが、旧新約全巻（外典は含まず）を省略なしに収録しているので、聖書の翻訳の中に加えて問題はないであろう。ただ他のどの訳よりも自由な訳し方をしていることは間違いない。

初版は1972年で、1976年に出た第19版には417万冊が印刷されたと記されている。旧新約の各巻ごとに冒頭に写真が載っているが、聖書の内容とは関係のない現代の青年の写真であって、聖句とは別に若者に対する奨励の言葉が写真に添えられて、両方で1～2ページを占めている。どのようなときにどの箇所を読んだらよいか書いてあるページもあり、たとえば「疲れているときには、詩篇23篇」などとなっているのも、この聖書の目指すところをよく示している。これは確かに手っ取り早く理解するには便利なので、宗派を越えて多くの人達の間で人気があるが、一方ではこれが聖書として使用されるとしたら嘆かわしい風潮だと思う人も多い。

神学的に疑問をもたれる箇所も少なくない。ヨハネによる福音書第1章の冒頭などは、そのよい例であろう。

[1,2]BEFORE ANYTHING ELSE existed, there was Christ, with God. He has always been alive and is himself God.

第1節の他の訳についてはGNBの項および前回の小論のⅣ参照。第2節だけ4例あげると：

(AV) The same was in the beginning with God.

(GNB) From the very beginning the Word was with God.

(BBE) This Word was from the first in relation with God.

(GNT) It was he that was with God in the beginning.

原語のLogosは確かにキリストを指すものであろうが、Christと訳してしまうのは後半の訳とともに行き過ぎであって、正しい訳ではないという指摘がある[3)]。

WAYが他の訳に比べて独特のスタイルになっていて、原文の文体、構文、単語などはほとんど考慮されず、その趣旨だけを伝えようとしていることがよく分かる例として、旧約の伝導の書第1章の冒頭の4節を他の5訳と比較してみる。

(AV)

[1]The wordes of the Preacher, the son of Dauid, King in Ierusalem.

[2]Vanitie of vanities, saith the Preacher, vanitie of vanities, all is vanitie.

[3]What profite hath a man of all his labour which hee taketh vnder the Sunne?

[4]One generation passeth away, and another generation commeth : but the earth abideth for euer.

(RSV)

[1]The words of the Preacher, the son of David, king in Jerusalem.

[2]Vanity of vanities, says the Preacher,

3) *The Duke Divinity School Review*, Spring 1979, p. 137

vanity of vanities! All is vanity.
[3]What does man gain by all the toil
at which he toils under the sun?
[4]A generation goes, and a generation comes,
but the earth remains for ever.
(NEB)

The emptiness of all endeavour

[1]THE WORDS OF THE SPEAKER, the son of David, king in Jerusalem.
[2]Emptiness, emptiness, says the Speaker, emptiness, all is empty.
[3]What does man gain from all his labour and his toil here under the sun?
[4]Generations come and generations go, while the earth endures for ever.
(NIV)

Everything Is Meaningless

[1]The words of the Teacher, son of David, king in Jerusalem:
[2]"Meaningless! Meaningless!" / says the Teacher.
"Utterly meaningless! / Everything is meaningless."
[3]What does man gain from all his labor / at which he toils under the sun?
[4]Generations come and generations go, / but the earth remains forever.
(GNB)

Life Is Useless

[1]These are the words of the Philosopher, David's son, who was king in Jerusalem. [2]It is useless, said the Philosopher. Life is useless, all useless. [3]You spend your life working, laboring, and what do you have to show for it? [4]Generations come and generations go, but the world stays just the same.
(WAY)

[1]THE AUTHOR: SOLOMON of Jerusalem, King David's son, "The Preacher." [2]In my opinion, nothing is worthwhile; everything is futile.

3-7For what does a man get for all his hard work? Generations come and go but it makes no difference.

AV と RSV とは同じだが、それを一つとして、NEB、NIV、GNB と比べてみると、「伝導者」がそれぞれ preacher、speaker、teacher、philosopher に、「空」が vanity、emptiness、meaningless、useless というように全部別の語を用いているが、a generation goes のところは、いずれも大同小異であるのが面白い。この部分は WAY も同じだが、第 2 節では原文の文体から大きく離れている。

創世記について見れば：

6And God said, "Let the vapors separate to form the sky above and the oceans below." 7-8So God made the sky, dividing the vapor above from the water below. This all happened on the second day.

ここで vapor という語が用いられているのも注目に値するが、第 8 節の前半（God called the firmament Heaven）が全く脱落している。また後半は他の訳では全く同じ文が繰り返されるのだが、WAY では表現に変化を持たせているのは、現代の読者にくどい感じを与えないための配慮と思われる。

5Together they formed the first day.

13This all occurred on the third day.

19They all happened on the fourth day.

23That ended the fifth day.

第 16 節のように AV よりも長くなっている箇所もあるが、21、26、29 の各節のように簡略化されているところが多い。

ヨハネでは第 1 、 2 節について既に記したように、最初の 5 節をはじめ、各所で大胆に表現が変えられている。 次の第 27 節などは AV とは大きな意味の違いがある。

（AV） He it is, who comming after me, is preferred before me, whose shoes latchet I am not worthy to vnloose.

（WAY） who will soon begin his ministry among you, and I am not even

fit to be his slave."
第20節での大胆な変更については前項で述べた通りである。

このように宗教に無関係な人々の興味をできるだけ引き付けようという意図をもって、今の時代の需要に応えようとする聖書であるから、初めて聖書を読む人に分かりやすいことを目指しており、そのことは創世記では語数が少なくヨハネ福音書では語数が多いという最新の訳に共通の特色をはっきり示す結果となっている。創世記の語数586はこれまでに取り上げたすべての訳の中で最も少ない。それに対してヨハネの1015は今回取り上げた4訳の中では一番少ないものの、AVおよび前回の5訳のいずれよりも多い。その理由はこれまで繰り返してきたことと同じである。AVと共通の単語の率は、意外なことに創世記では47.9%で、GNBの39.9%よりも多いが、その他のどの訳よりもはるかに少ない。ヨハネでは38.4%で、これは他のどの訳よりも圧倒的に少ない。構文でのAVとの共通率、43.3%および38.3%はすべての訳の中で最も低い率である。予想通りではあるけれども、WAYがAVとは一番遠いところにある英訳聖書であることは間違いない。

Ⅲ. 基礎英語聖書
(*The Bible in Basic English*)

英語の現代口語訳聖書の中で変わったものに表記のものがある。これは使用単語を基礎英語850語と、聖書用語150語の合わせて1000語だけに限って訳されたものである。著者はSamuel Henry Hookeで、ヘブル語およびギリシア語の原典から訳され、1949年に全巻が完成し出版されている（新約だけは1940年に完成して、その翌年に出版されている)。使用単語の数が限られているために、原典の意味を精確に伝えるのが困難なことが屢々あるが、ぞんざいな表現や意味の間違いがないように各節ごとに非常な注意を払ったと巻頭言で述べられている。これはMOFを除いて前回取り上げたどの訳よりも古いもので、単語が許す限りAVから離れないように心掛けているようであり、内容的には決して革新的なものではない。たとえば創世記の第3節などはAVと全く

同じで、quotation mark も用いられていない。AV と同様 1 節ごとに改行されていて、パラグラフにも分けられていない。創世記で AV と変えられているところを幾つかあげると：

(AV)

[5]And God called the light, Day, and the darknesse he called Night : and the euening and the morning were the first day.

[6]And God said, Let there be a firmament in the midst of the waters : and let it diuide the waters from the waters.

(BBE)

([4]…and God made a division between…)

[5]Naming the light, Day, and the dark, Night. And there was evening and there was morning, the first day.

[6]And God said, Let there be a solid arch stretching over the waters, parting the waters from the waters.

そのほか、the lesser light が the smaller light に、fowl が bird に、great whale が great sea- beastsになど。ヨハネ福音書では：

(AV)

[1]In the beginning was the Word, & the Word was with God, and the Word was God.

[5]And the light shineth in darknesse, and the darknesse comprehended it not.

[8]Hee was not that light, but was sent to beare witnesse of that light.

[10]Hee was in the world, and the world was made by him, and the world knew him not.

[11]Hee came vnto his owne, and his owne receiued him not.

(BBE)

[1]From the first he was the Word, and the Word was in relation with God and was God. / [5]And the light goes on shining in the dark ; it is not

overcome by the dark. / [8]He himself was not the light : he was sent to give witness about the light. / [10]He was in the world, the world which came into being through him, but the world had no knowledge of him. / [11]He came to the things which were his and his people did not take him to their hearts. 第5節でAVはcomprehendを用い、NIVもunderstandを用いているのはラテン語訳の影響だが、RSVでは原語にもとずいてovercomeに改められており、他の新訳はほとんどそうなっていて、BBEでもその線に沿った訳になっている。

創世記の語数814、ヨハネの1100は、いずれもAVおよびすべての新訳の中で最も多くなっているが、これは単語を制限されているため、他の訳では1語ですむところを複数の語で言い表す必要があるためである。AVとの語の共通率は創世記が64.7%、ヨハネが53.2%で、MOF、NEB、JERの3訳とほぼ同じである。構文の共通率は創世記では71.0%でRSVよりも高く、ヨハネでは59.8%でGNTとともにRSVに次いで高くなっている。結論としては、この訳は基礎単語に制限したという特色を除いては、保守的な訳であると言えよう。

Ⅳ. Goodspeed訳（*The New Testament, an American Translation*）

シカゴ大学のギリシア語教授Edgar Johnson GoodspeedはWestcottとHortの原語テキストにもとずいて独自の英訳聖書を1923年に出したが、これが*The New Testament, an American Translation*である。旧約は同じ大学のJohn Merlin Powis Smithを中心として4人の共訳で1935年にGoodspeedの新約と合わせて*The Bible, an American Translation*として出版され、俗に*The Chicago Bible*または*Smith－Goodspeed Bible*と呼ばれる。ここでは新約の方だけを取り上げることとしたい。Goodspeedによると、新約は古典ギリシア語、七十人訳のギリシア語、当時の文語体のギリシア語のいずれでもなく、日常会話体のギリシア語で書かれているのであるから、英訳も平易で素朴な日常の英語がふさわしいということである。MOFとほぼ同じ時期に出たもので

あるが、スコットランド人であるモファットの英語はアメリカ人の耳には違和感があるので徹底的にアメリカの口語になっている。なお彼はこの直後にRSVの仕事にも加わっている。RSVは英語を現代化しているがAVの古いスタイルもある程度残しているのに対して、Goodspeedは日本の高校生でも読める容易な英語に訳している。しかしデナリをAVではa penyとしているのに、RSVではa coinに変え、Goodspeedはオリジナルのa denariusに戻しているような箇所もあって興味深い。ここではRSVと比較してみる。

(RSV)

[3]all things were made through him, and without him was not anything made that was made.

[6]There was a man sent from God, whose name was John.

[31]but for this I came baptizing with water, that he might be revealed to Israel.

(GNT)

[3]Everything came into existence through him, and apart from him nothing came to be.

[6]There appeared a man by the name of John, with a message from God.

[31]but it is in order that he may be made known to Israel that I have come and baptized people in water.

GNTの語数は1042でBBEに次いで多い。難解な語を避けて平易な言い回しをしているためである。AVとの語の共通率は51.2%で、GNBとWAYを除くと一番低い。しかし構文の点ではBBEと同じでRSVに次いで高い数字になっている。これは単語を現代の人達に分かり易いものに変えているが、殊更にAVから離れようという意図はもっていないためであろう。

V. 結　論

前回と今回取り上げた9種の新訳の中で、一番古いのはMOF（1913－28）とGNT（1923）で、一番新しいのがNIV（1978）とGNB（1976）であるが、

WAY もやはり 1970 年代のもので、 NIV が保守性の強いものであることは前回述べた通りである。

旧約では GNB と WAY の語数は目立って少ないが、新約では逆に AV よりも語数が多い。この理由は前回の場合と全く同じで、旧約では単純な物語の文を近代的にしただけなのに対して、新約では意味が分かるように文が説明的になっているためである。BBE（旧新約）と GNT（新約）が共に語数が極端に多いのは、平易な文にするためであることはそれぞれの項で述べた。

AV と共通の語は、旧新約とも BBE が前回の RSV 以外の 4 訳とほぼ同じなのに対して、GNB と WAY は著しく少なく半分以下の比率である。GNT は半分をやや上回るが前回の諸訳よりも少ない。AV と似た構文は、BBE が旧約では RSV より多く、新約では BBE とともに RSV に次いで多いのに対して、GNB と WAY は旧新約ともきわめて少ない。

以上を総合すると、 BBE と GNT は MOF、 NEB、 JER と大体同じ程度に AV の影響下にあり、GNB と WAY は影響が最も少ないということになる。

BIBLIOGRAPHY

The Holy Bible, an Exact Reprint in Roman Type, Page for Page of the Authorized Version Published in the Year 1611
(Oxford University Press, 1985)

Good News Bible, Today's English Version
(American Bible Society, 1976)

The Way, The Living Bible Ilustrated
(Tindale House Publishers, 1976)

The Bible in Basic English
(Cambridge at the University Press, 1965)

Edger J. Goodspeed:The New Testament, an American Translation
(University of Chicago Press, 1940)

The Duke University School Review, Spring 1979

A.T. Robertson : Word Pictures in the New Testament
(Broadman Press, 1930)

表1　創世記第1章　各節語数表

verse	AV	MOF	NEB	JER	RSV	NIV	GNB	WAY	BBE
1	10	7	11	10	10	10	8	9	10
2	29	21	27	20	29	25	27	19	31
3	11	10	10	10	11	11	10	10	11
4	17	15	14	12	16	15	15	13	22
5	22	19	18	17	21	22	20	28	19
6	23	14	15	20	23	16	24	16	19
7	26	17	21	18	26	21	17	13	26
8	16	15	14	13	17	16	15	7	20
9	25	23	22	22	25	23	24	24	25
10	24	19	22	19	23	20	23	15	27
11	34	29	31	25	34	31	24	}47	30
12	33	29	30	29	34	30	16		35
13	10	9	8	8	11	11	10	7	11
14	34	28	30	24	34	33	26	}44	41
15	22	18	17	18	21	21	16		21
16	26	25	26	23	27	25	27	42	33
17	16	13	14	13	16	15	12	11	15
18	25	20	18	19	24	20	22	20	26
19	10	9	8	8	11	11	10	7	11
20	29	25	22	25	25	23	22	23	25
21	34	26	33	27	37	39	29	23	32
22	23	28	23	22	23	26	29	25	29
23	10	9	8	8	11	11	10	5	11
24	30	22	26	23	31	32	22	24	34
25	34	23	20	23	37	35	13	20	36
26	50	42	38	45	50	46	36	29	50
27	22	22	22	22	22	22	17	20	21
28	46	36	37	34	46	42	39	27	49
29	42	28	28	28	35	32	16	20	33
30	39	33	29	28	41	44	24	17	37
31	25	21	21	20	25	23	22	21	24
合計	797	655	663	633	796	751	625	586	814

AV＝The Authorized Version
MOF＝The James Moffat Translation
NEB＝The New English Bible
JER＝The Jerusalem Bible
RSV＝The Revised Standard Version
NIV＝New International Version
GNB＝Good News Bible
WAY＝The Way (The Living Bible)
BBE＝The Bible in Basic English
GNT＝Goodspeed's New Testament

表2　ヨハネによる福音書第1章　各節語数表

verse	AV	MOF	NEB	JER	RSV	NIV	GNB	WAY	BBE	GNT
1	17	16	20	16	17	17	20	9	18	16
2	8	8	9	7	7	7	9	9	10	10
3	17	15	15	16	16	15	16	11	12	14
4	12	12	18	17	12	12	14	13	16	17
5	12	13	14	14	13	13	14	17	16	16
6	11	10	9	10	11	13	8	}18	11	14
7	19	23	17	20	16	18	17		19	21
8	14	16	14	13	13	15	13	14	15	12
9	14	13	14	17	12	14	17	18	15	14
10	18	17	19	18	18	19	21	14	21	20
11	11	15	12	14	13	15	14	16	18	13
12	25	26	24	24	19	22	19	35	28	20
13	22	22	21	21	22	18	26	23	19	16
14	30	33	29	31	28	34	29	39	41	38
15	29	25	35	28	27	28	36	39	30	31
16	12	12	12	16	11	14	18	18	12	15
17	15	15	15	16	14	14	14	23	19	17
18	24	23	23	23	22	21	26	29	26	23
19	22	20	25	23	22	20	18	20	24	25
20	13	16	11	14	13	14	18	11	11	17
21	23	20	17	19	22	22	24	18	27	24
22	24	27	23	26	24	24	26	25	27	27
23	24	24	23	22	24	26	26	22	25	21
24	9	8	9	9	8	7	9	}27	9	5
25	23	22	16	25	19	18	18		25	21
26	18	19	24	14	17	15	16	20	20	20
27	20	12	9	16	17	19	16	18	17	15
28	12	16	11	15	12	16	17	20	18	16
29	24	26	29	25	24	24	25	24	26	23
30	22	23	29	25	21	23	31	26	24	30
31	21	22	26	21	21	22	25	25	23	27
32	20	19	18	20	19	20	20	21	21	21
33	41	36	44	43	37	40	45	51	42	40
34	13	16	14	17	15	13	17	18	15	15
35	12	11	12	14	12	12	13	12	12	12
36	14	17	16	17	15	13	14	18	17	13
37	11	11	10	7	11	11	11	8	10	11
38	29	30	26	22	27	22	24	21	32	28
39	27	32	31	28	29	28	33	30	36	35
40	16	20	17	22	16	20	8	9	18	17
41	22	21	26	20	18	23	19	16	28	23
42	31	28	27	27	27	28	35	31	29	28
43	18	17	12	18	19	17	19	18	25	21
44	11	12	14	11	11	11	11	9	11	11
45	29	32	32	33	29	31	36	35	34	37
46	21	15	14	16	18	14	13	17	21	17
47	19	19	21	20	19	20	22	15	24	21
48	29	26	23	22	26	24	24	25	31	26
49	19	15	14	15	16	16	15	13	16	14
50	27	23	26	23	25	22	28	28	27	27
51	30	27	29	28	29	26	29	19	29	27
合計	1004	996	998	998	953	970	1036	1015	1100	1042

表3　単語および構文の共通率

		MOF	NEB	JER	RSV	NIV	GNB	WAY	BBE	GNT
創世記	ＡＶと同じ語の数	381	390	353	517	390	214	239	460	------
	ＡＶと異なる語の数	193	204	200	164	259	323	260	251	------
	ＡＶとの語の共通率	66.4	65.7	63.8	75.9	60.1	39.9	47.9	64.7	------
	ＡＶとの構文の共通率	57.5	54.5	53.3	65.5	61.4	47.1	43.3	71.0	------
ヨハネ福音書	ＡＶと同じ語の数	473	454	468	630	505	452	346	531	483
	ＡＶと異なる語の数	419	430	415	219	347	470	555	468	461
	ＡＶとの語の共通率	53.0	51.4	53.0	74.2	59.3	49.0	38.4	53.2	51.2
	ＡＶとの構文の共通率	44.8	42.9	47.4	85.5	55.8	40.9	38.3	59.8	59.8

（共通率はすべて％）